

大震災の経験から 教育と研究の新たな飛躍を遂げて 「真に豊かな社会」の創造を目指そう

はじめに

研究科長・学部長あいさつ



東北大学大学院工学研究科長・工学部長
金井 浩

一年前の未曾有の大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈念しております。また、被災地で復興に向け日々努力されている皆様に心より敬意を表する次第です。青葉山キャンパスも少なからぬ物的被害を受けました。

震災直後は、従前の勉学・研究環境を取り戻すべく教職員一同、奔走いたしました。大きな混乱もなく、学生達の冷静沈着な行動にも特筆すべきものがありました。その後、仮設研究棟や実験設備が整備され、平時同様の運営を取り戻しました。大きな被害のあった3学科の研究棟・講義棟も平成26年春までに免震機能を加えて新築されます。

震災直前には、平成22～23年のセンタースクエアプロジェクトが完成し、購買とブックカフェからなるBOOOK(ブーク)と中央棟(食堂と上階の事務室、大会議室、大講義室)の2棟が青葉山キャンパスを透明感のある斬新な景観に変化させました。青葉山キャンパスの西側では、地下鉄東西線(平成27年開業予定)青葉山駅の周辺に、レアメタル・グリーンイノベーション研究開発拠点と災害科学国際研究所(平成24年4月発足)の研究棟が平成26年までに完成します。

本学は、開学以来、研究第一主義、実学尊重を理念とし、近代日本の隆盛と持続的発展を牽引し、世界に先んじ科学技術の地平を拓いてきました。しかし近年、研究者や専門家が対峙すべき課題には、地球環境問題、化石資源の枯渇、グローバル化、少子高齢化、ものづくりの衰退等が山積しています。さらにこの大震災で、従来の工学では、安全安心な社会の構築を達成できなかったということが厳然たる事実として突き付けられました。

そもそも工学とは、物質的な豊かさの探究に加え、安全安心、健康・福祉、時間的余裕の供与など「真に豊かな社会」の創造を目的とする学問です。特にこの震災体験によって得られた教訓から、本学部・研究科の教職員・学生・卒業生の皆さんは、社会に貢献していかなければという強い使命を抱くようになりました。今後、長い歴史の中で培った英知と技術を礎に、人類が抱える大きな課題の根本的な解決に役立てていくものと期待しております。

(平成24年4月)